

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 52 号

2013/06/10 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを 5 本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：反転し、一気に急上昇。更なる高値は半年近く抜けていない、動きに注目

①週最高：LDN 市場 £ 1,563 / NY 市場 \$2,364 (6/6, 6/7) 先週比 **LDN+ £ 53 / NY+\$153**

②週最低：LDN 市場 £ 1,510 / NY 市場 \$2,246 (6 月 3 日) 先週比 **LDN+ £ 14 / NY+\$50**

週内価格差額 (①-②)：LDN 市場 £ 53 (傾向 ↑) / NY 市場 \$118 (傾向 ↑)

週内建玉推移：LDN 市場 237,347 枚 ⇒ 240,122 枚 +2,775 枚

NY 市場 214,549 枚 ⇒ 211,634 枚 -2,915 枚

【6月3日(月)】両市場とも反発

ニューヨーク市場の7月きりは反発し、55ドル(2.5%)高の2246ドルで引けた。5月20日以来の最大の上げ幅となった。英ポンド高が支えとなった。

出来高は250日平均の2倍を超える4万8000枚超となった。

ココア先物は、コートジボワールの天候改善で供給懸念が後退する中、5月の下落を受け値固め局面となっていた。ロンドンに拠点を置くココア先物ブローカーは「作物は現在、十分に発育しているとみられる」と話した。ロンドン市場の9月きりは、14ポンド(0.9%)高の1510ポンドで終了した。売られ過ぎの市場で、投資家のショートカバーが入り、相場を支えた。

【6月4日(火)】両市場とも続伸

ニューヨーク市場の7月きりは、米ドルの下落をきっかけとした買いに続伸、37ドル(1.6%)高の2283ドルで引けた。

トムソン・ロイターの集計によると、出来高は4万5000枚以上で、30日間平均の2万5000枚弱を大きく上回った。

アトランティック・キャピタル・アドバイザーズの上級パートナー、ニック・ジェンタイル氏は、3日時点の未決済約定残高が増加したことを指摘した上で、「投機筋の新たな買いが入っているようだ。市場参加者はロングを乗り換えながら新たなロングを積み増している」と述べた。ロンドン市場の9月きりも続伸。20ポンド(1.3%)高の1530ポンドで終了した。

【6月5日（水）】3日続伸

ニューヨーク市場のココア先物は3日続伸。7月きりは、25ドル（1.1%）高の2308ドルで引けた。

RJOフューチャーズ（シカゴ）の上級市場ストラテジスト、ヘクター・ガルバン氏によると、2200ドル近辺ではテクニカルな支持がみられ、過去3営業日で5%以上も反発したという。

ただ、西アフリカでの豊作を受け、上値は限られた。

ロンドン市場の9月きりは、16ポンド（1%）高の1546ポンドと、3日続伸で引けた。

【6月6日（木）】4日続伸

両市場とも続伸。

ニューヨーク市場のココア先物は4営業日続伸し、7月きりは55ドル（2.4%）高の2363ドルで引けた。

テクニカルな上値抵抗線だった2340ドルを突破すると、ストップロスの買いが加速した。

過去4日間で8%上昇しており、同期間の上昇率としては昨年8月以来の高さ。ロンドン市場の9月きりも4営業日続伸し、17ポンド（1.1%）高の1563ポンドで終了した。

【6月7日（金）】NYは続伸、ロンドンは僅かに下落

ニューヨーク市場はテクニカル要因で続伸する一方、ロンドン市場は反落した。

ニューヨークの7月きりは1ドル高の2364ドルで引けた。

上値抵抗線を突破したことを受け、テクニカルな地合いが強まり、週間では8%上昇した。

ただ、利食い売りが上値を抑えた。

ロンドンの9月きりは3ポンド安の1560ポンドで引けた

2、コートジボワールのカカオ豆着荷量、2日時点で約124万トン＝輸出業者推計(6/3)

輸出業者が3日推計したところによると、今年度（2012年10月～13年9月）の同国港のカカオ豆着荷量は2日時点で約124万2000トンと、前年同期の117万2000トンを上回った。5月27日～6月2日までの1週間のアビジャン、サンペドロ両港の着荷量は約2万2000トンで、前年同週の1万8000トンを上回った。

3、ガーナのカカオ豆購入、5月23日時点で前年比7.25%減＝監督機関(6/4)

ロイター通信が閲覧したガーナのカカオ豆監督機関、ココア委員会（Cocobod）が3日発表した統計によると、同国のカカオ豆買い付け量は、年度開始の昨年10月12日から今年5月23日までに71万9492トンとなり、前年同期比7.25%減少した。

5月23日までの1週間（33週のメインクropp期の32週目）の買い付け量は2万1964トンと、前週（31週目）の1万8440トンを上回った。同委員会の幹部は、ロイター通信に対し、現在のカカオ豆生産は前年同期と比べて7%下回っているが、買い付け量はシーズンの目標を超える可能性があるとの見方を示した。

4、コートジ、ミッドクropp期カカオ豆生産は高水準＝大雨が寄与＝農家ら (6/4)

農家とアナリストが3日語ったところによると、コートジボワールのカカオ豆主産地の大半で先週、大雨が降ったことから、ミッドクropp期（4～9月）の豆の品質が向上し、生産量は高水準に達する見込みだ。

ミッドクropp期の収穫は、年初の乾燥と高温で多くのカカオの花や、なったばかりの実が枯れたのを背景に、出だしが遅れていた。

カカオベルトの中心スプレ郊外の農家は、「雨が大量に降った。ミッドクroppに好ましい」とした上で、「収穫がすぐに終わることはないだろう。木には多くの花と実があり、6月以降もカカオ豆が収穫できる見込みだ」と述べた。また、同国カカオ生産の4分の1を担うダロアの農家は、2度にわたる大量の降雨が、多くの小さな実の生育に寄与したと語った。

5、コートジ、カカオ豆調達の調整金を560億 CFA francs 準備(6/7)

世界最大のカカオ生産国であるコートジは今シーズンから行っている産業構造改革の一部として、世界のカカオ価格の変動から生産者への支払いを保護する為のカカオ豆調達の調整金として560億 CFA francs(112.64百万米ドル＝11.2億円)積みたてたと、政府の広報担当者は発表した。

コートジは、今年、これまで続いてきた自由開放的なカカオ豆の取引制度を廃止し、カカオ生産者の収入向上への取り組みの一環として、政府は最低買い取り価格を生産者に保証する為、2012/2013シーズンのカカオ豆の販売を先物で販売した。

『3月31日現在の不足金額は560億 CFA francs であった』Bruno Kone 広報大臣は今週木曜日にアビジャンでの国会の後に取材陣に対して説明した。

『我々政府は、全シーズンを通じて生産者のカカオ価格を保証するだけの十分な資金をもっています』彼は説明した。

コートジは、10月～3月までのメインクroppのカカオ豆の農家買付け価格をキログラム当たり、725 CFA francs と固定しており、4月～9月までのミッドクroppに収穫される小さく、価値の低いカカオ豆に関しては、700 CFA francs と固定している。

今回政府が発表したこの調整金は、今後最終的には700億 CFA franc 規模になり、主に大きなカカオ価格の下落の際に農家への支払いを保護する為の資金として使われる見込みである。

6、インドネシア、スマトラ島からの5月カカオ豆輸出は前年対比21%減少(6/4)

インドネシアの主要なカカオ生産地であるスマトラ島からの5月のカカオ豆の輸出は前年同月の7114.46トンに対して21%の減少となる5,654トンとなったことが今週火曜日に業界が発表した統計によって判明した。

また5月の輸出数量は、前月の4月と比較し2%の減少となった。

一般的にインドネシアでのカカオ生産数量はコートジ、ガーナに次ぐ世界第3位で2013年は前年を11%上回る45万トン～50万トンの収穫数量の予測をしている。

下記は 2012/2013 年のインドネシア・スマトラ島からのカカオ豆輸出数量統計である。

月	輸出数量 (トン)	前年同月対比 (%)

2013 年		
May	5,654.00	-21
April	5,781.25	-27
March	8,662.08	+147
February	7,790.50	-2
January	8,349.38	-6

2012 年		
December	7,508.11	-38
November	9,417.71	-20
October	5,734.81	-17
September	17,240.14	+133
August	4,340.00	-48
July	8,464.34	-37
June	4,935.48	-68
May	7,114.46	-53
April	7,912.02	+404
March	3,505.66	-69
February	7,917.7	-20
January	8,904.25	-23

今週の関連ニュース

①NZ、TPP交渉通じ乳製品輸出の拡大狙う＝日本に例外認めぬ姿勢（6月8日）

【オークランド時事】「酪農王国」ニュージーランドが、環太平洋連携協定（TPP）交渉を通じ、同国の輸出全体の4分の1を占める乳製品のさらなる輸出拡大を目指している。同国は乳製品で高関税を課す日本に対し、関税撤廃を原則に掲げる交渉で「乳製品を除外する用意はない」と、強い姿勢で臨む方針だ。

ニュージーランドでは、飼料代がかさむ日本と異なり、年間を通じてほぼ牧草のみで乳牛を飼育できる。低コストで生産した生乳をチーズやバター、粉乳などに加工して輸出。競争力は高く、世界の乳製品輸出量の3割を占める。

これに対し日本は、チーズで29.8%、バターでは実質360%程度の関税を課して国内生産者を保護している。農林水産省は、2010年の試算で、関税が撤廃されれば、内外価格差が大きいバターなどを中心に外国産に置き換わり、日本の牛乳・乳製品生産量は56%減少すると予測した。

ニュージーランドの関税撤廃要求の矛先は、同様に高い関税を課すカナダや米国などにも向かう。日本

に例外を認めれば、他国にも波及するとの懸念もある。ただ、ニュージーランドの薬価抑制のための規制は米医薬品大手の攻撃対象となっており、この分野では守勢だ。農産物の市場開放に強く抵抗してきた日本。ニュージーランドでは、交渉に臨む日本の頑迷な姿勢に批判的な見方も根強い。一方で、成長戦略の柱の一つとして農業の競争力強化などを打ち出す最近の日本の動きに、「今度は真剣かも」（ニュージーランド・ヘラルド紙）と、期待も高まっている。

②TPPで「新しい貿易」を＝10月までの合意困難か—NZ酪農団体会長インタビュー（6月8日）
【オークランド時事】ニュージーランドの乳業最大手フォンテラなどで構成される同国酪農団体DCANZのマルコム・ベイリー会長は8日、時事通信のインタビューに応じた。会長は、環太平洋連携協定（TPP）交渉について、「新しい貿易を生み出す」ものでなければならないと強調。原則的としては、日本などが課す乳製品関税の撤廃を求めつつも、必ずしも関税ゼロにこだわらない姿勢も示した。主なやりとりは次の通り。

—乳製品の関税をめぐる協議はどの程度進んでいるか。

TPP全体としては順調に進展しているが、最も敏感な問題は後回しにされがちで、乳製品はその一つだ。まだ実質的な取り組みは進んでいない。10月までの合意達成は厳しそうだ。カナダも高い関税を課している。

—ニュージーランドは関税撤廃の原則を掲げるが、関税を残す形での妥協に応じる可能性は。

新しい貿易を生み出すTPPでなければならないというのが、われわれの最終的な考え方だ。高い関税を少し引き下げるだけというのは受け入れられない。

—日本の農家には懸念が強いが。

私自身、農家として20年以上前に（競争力強化のための）農業改革を経験した。改革の終了時点で自分はおも農業を続けているだろうかという不安と恐ろしさがあった。日本の農家も同じようなことを訴えていると思う。

関税をゼロにするのに少し長めに期間をかけることで変化への不安を和げられるのなら、それは妥当なことだ。要は、適応のための時間だ。日本の問題の敏感さは尊重しなければならない。

—関税撤廃でも日本市場がニュージーランド産で埋め尽くされることはないとのことだが。

ニュージーランドの乳製品の生産量は世界全体の2.5%程度にすぎない。中国とインドの需要の伸びは驚異的だ。市場を埋め尽くせるほどの量はわれわれにはない。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらも何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

〈お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先〉

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp